



Global



Technology



Safety

第61期 株主通信

平成19年4月1日～平成20年3月31日



Regeneration for Quality

品質維新

“安全・安心”を原点に、新たな躍進へ！

空間移動システムの専門メーカーとして、1948年に創業して、今年でちょうど60年。

創業時から、国際化社会の到来を予見して、いち早く国際市場へ進出して以来、

世界20の国と地域に企業拠点・生産拠点を擁し、グローバルな活動を展開しています。

「その国に根を下ろし、共存共栄を図る」「専門メーカーとして、独創技術を創み出す」

「だれもが安心してご利用いただける商品を提供する」ことは、

創業以来、フジテックの変わらぬ企業理念であります。

「創業60周年」を機に、“安心を品質から”を合言葉に徹底した品質を追求し、

より快適で安全な都市機能の向上に邁進しています。

経営ビジョン

安全と品質を最優先に、顧客の信頼と期待に応える。

グローバルで評価されるNo.1商品を提供する。

企業体質を革新して、持続的成長基盤を強固にする。

社長インタビュー	1
主な活動概況	4
新商品	6
トピックス	8
連結決算情報	10
単独決算情報	14
株式の状況	16
企業データ	17



President's Interview

社長インタビュー

中期経営計画“Regeneration for Quality”初年度のご報告と、本年度の実践目標について

「創業60周年」を機に新たな革新プランを遂行し、更なる発展と繁栄を目指します。

今年2月に「創業60周年」を迎えられましたが、振り返ってみて、いかがでしょうか。

当社は1948年にエレベータ専門メーカーとして創業し、今年でちょうど60周年を迎えました。今年は次の新しい160年につなげる大きな節目の年と考えています。

60年の歩みを振り返ってみますと、創業者が都市での快適な移動機能の向上を願うとともに、「世界は一つの市場」とのグローバルな視野に立って企業活動を行ってきました。日本はもとより、東アジア、南アジア、北米、南米、欧州、中東へと市場を拡大し、現在は世界20の国と地域に企業拠点・生産拠点を擁しています。

60年の歴史に裏付けられた卓越した技術と商品、世界を網羅したグローバル・ネットワーク体制、そして長年にわたり培ってきたお客様との固い絆があり、これからもお一層の躍進を目指していく決意です。

昨年は、鋼材の強度不足問題等で、お客様や利用者の皆様に変々ご迷惑をおかけする結果となりました。今後二度とこのような事態を起こさないよう、再発防止に取り組んでおりますとともに、徹底して品質を追求し、皆様に安心して商品をご利用いただけるよう努めています。



代表取締役社長 内山 高一

厳しい世界情勢の中で、昇降機市場の状況はいかがでしたでしょうか。

昨年度の世界経済は、米国での住宅市場の低迷や金融市場の混乱などで、景気が減速しました。一方、中国は依然、高成長を持続していますが、その他のアジア諸国や欧州も景気の減速傾向はあるものの、堅調に推移しました。

日本経済は、景気回復の基調を保っていますが、住宅投資が急減したため設備投資に陰りが見られ、景気の減速感が強まりました。

こうした情勢の中、当社に関連します昇降機業界において、北米市場は住宅向けの需要が減少しましたが、オフィスビルや商業施設などは安定した需要がありました。一方、アジアでは、中国市場において住宅向けを中心に旺盛な需要が続きますとともに、シンガポールを始めとする南アジア地域でも、景気拡大に伴って需要が増加しました。

日本市場では、公共事業が引き続き縮小するとともに、民間部門は建築基準法が改正されて構造計算の審査が厳しくなった影響で、マンションの建築着工が大幅に減少しました。一方、ショッピングセンターを核とする商業施設などの需要は着実な伸びを見せています。しかし、収益面では激しい価格競争と原材料価格の高騰が続いていますので、依然厳しい状況下にあるといえます。

第61期は新中期経営計画の初年度でしたが、 昨年の業績はどのようになりましたか？

昨年度の連結売上高は、国内売上高が前期と比べて5.9%増加するとともに、海外売上高は南アジアや東アジアでの増加、および期中の円安の影響などで5.5%増加し、前期比5.6%増の1,106億3,200万円となりました。

営業利益は、東アジアで減益となりましたが、日本と南アジアでの増益、北米・欧州が黒字となりました結果、前期と比べて9.7%増の44億2,800万円となりました。営業外収支は、期末へかけての急激な円高により為替差損が発生しましたので、2億9,600万円の利益にとどまり、経常利益は47億2,500万円で前期と比べて1.0%減少しました。

特別損益では、前期の旧大阪製作所跡地の売却益78億3,700万円が無くなりますとともに、エレベータ部材の改修工事に係る直接費用3億9,600万円を特別損失に計上しました結果、税金等調整前当期純利益は、前期と比べて70億5,700万円減少の43億8,100万円、当期純利益は前期比50億2,600万円減少し、22億1,900万円となりました。

単独業績において、売上高は新規工事がやや増加したのに加え、モダンゼーションおよび修理工事が大きく増加したことにより、前期と比べて3.5%増の525億9,700万円、営業利益は前期比17.2%増の12億4,100万円、経常利益は前期比7.7%増の24億

8,300万円となりましたが、前期の旧大阪製作所跡地の売却益が無くなったことやエレベータ部材の改修費用の計上により、当期純利益は前期と比べて42億2,000万円減少し、12億6,100万円となりました。

中期経営計画2年目となる第62期の 経営方針や取り組みについて お聞かせください。

当社では2007年度から、新しい3カ年中期経営計画「Regeneration for Quality」（品質維新）をスタートさせましたが、本年度は創業60周年に当たることから、新商品の市場投入や、新たな事業計画に向けての革新プランを積極的に進めています。

具体的な取り組みとしては、まず「売上拡大への革新」です。従来の標準型エレベータを全面モデルチェンジした新標準型エレベータ「エクシオール」を今年4月から発売しました。この商品は、安全・安心を最優先するとともに、すべての性能・機能・品質を一段と向上させました。この新商品の拡販に全社挙げて取り組み、中期経営計画の最終年度であります2009年度には標準型エレベータ3,000台、オーダー型エレベータ1,000台の計4,000台の受注を果たしていきたいと考えます。

営業力・販売力の更なる強化を図るため、今年2月、東京都港区三田に「東京本社」を開設し、滋賀県彦根市の「ビッグウイング」との「2本社体制」としました。国内最大のマーケットであります首都圏での一層の拡販を図りますとともに、多方面にわたる情報の収集と発信を行い、ブランド・イメージを更に向上させていきます。

もう一つの大きな事業は、「エスカレータ拠点とフィールド拠点の再構築」です。エスカレータ拠点は、兵庫県豊岡市におりますが、生産体制の更なる拡充と研究開発体制の強化を図り、開発から生産に至るまでのスピーディーな一貫体制を確立します。そのため、来年秋の完成を目指して新たにオフィス棟と工場棟を建設し、「ビッグステップ」として事業の拡大を目指します。

一方、大阪府茨木市の旧本社ビルでは、据付・メンテナンスというフィールド部門での技術革新や人材育成を行う「フィールド技術研究所」と「フィールド研修センター」を設立したのに続き、モダンゼーション部門や遠隔監視センター、部品センターを集結し、“ビッグフィット”として高度なフィールド技術を確立します。



世界市場に向けては、 どのようなグローバル戦略を 展開していけますか？

世界市場においては、フジテック・グループのグローバルな相互連携と機動力を発揮しながら、販売戦略、事業戦略を展開し、収益向上を図っていきます。特に、依然高成長を持続する中国での活動を強化し、更なるシェア拡大に向けて全力を挙げて取り組んでいきます。

昨年5月、新エスカレータ工場が完成した「上海華昇フジテック」では、順調に生産体制の拡大を続け、中国国内や世界での旺盛な需要に対応しています。今年4月、日本にて発売されましたGS-NXシリーズは、上海華昇フジテックとの共同で開発したグローバル・スタンダード商品で、日本のみならず、世界市場での更なるシェア拡大を目指しています。

中国でのエレベータ生産拠点となる「華昇フジテック」では、大規模住宅プロジェクトを相次いで受注していることから、年間10,000台のエレベータ生産体制に向けて拡充を進めています。

このほか、インドや中東諸国での需要も伸びていることから、積極的な販売活動に注力しています。特にインドでは、現在のエレベータ需要は日本国内と同程度ですが、今後は2倍以上になると予想されており、当社もインド南部の最大都市チェンナイに「フジテック・インド」の本社を移転するとともに、新たに「エンジニアリング・センター」を開設し、技術部門の更なる拡充を図りながら、インド市場での新たな発展を目指しています。



当期の配当金について お聞かせください。

当期の期末配当金につきましては、本年2月9日をもちまして創業60周年を迎え、ご支援いただきました株主の皆様への感謝の気持ちを込めまして、普通配当5円に記念配当2円を加え、1株当たり7円とさせていただきます。これにより、当期の年間配当金は、中間配当1株当たり5円と合わせ、1株当たり12円となります。



最後に、株主の皆様へメッセージを お願いします。

本年は中期経営計画の2年目として、初年度での諸問題に対する市場からの信頼を早期に取り戻し、業績の回復と計画目標の完遂に全力を挙げますとともに、創業60周年として、フジテックが次の時代に向けて、大きく飛躍するための「変革の年」にしたいと考えています。

そのために、2本体制による組織の再編、新商品の投入による売上の拡大、エスカレータ部門およびフィールド部門の再構築、さらにモダンゼーション事業での一層の拡販などを通じて、収益の拡大と更なる企業価値の向上に尽力しながら、最終年度であります2009年度には営業利益率8%の実現を目指しています。

創業60周年を機に、もう一度、モノづくりの原点に立ち返り、企業活動すべてにおいて徹底したクオリティを追求し、安全・安心を最優先したエレベータ、エスカレータのご提供に努めてまいります。株主の皆様には、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

Activities

主な活動概況

日本

Japan

東京では、つくばエクスプレス秋葉原駅に直結する大型複合ビル“アキバ・トリム”が今年4月にオープン。ホテルと商業施設とから成り、エレベータとエスカレータ計16台が活躍しています。

また、“東京女子医科大学”の新病棟向けに、展望用機種を含むエレベータ8台を受注しました。同大学の「総合外来センター」には、エレベータとエスカレータ計19台を納入しています。

大阪では、日本最大級のデパートとなる“阪急百貨店うめだ本店”の建て替え工事に伴い、展望用機種を含むエレベータ10台を受注したのを始め、世界的建築家・安藤忠雄氏の設計によるホテルと商業施設の複合ビル“アーバン茶屋町”向けにエレベータ11台が納められます。神戸では、新神戸駅前に建つ大型複合施設“神戸芸術センター”が完成。地上37階建の同センターには、エレベータ8台が活躍しています。

また、京都の中心地・四条河原町に建つ大型商業施設“コトクロス阪急河原町”がオープンし、エレベータとエスカレータ計12台が活躍しているほか、

広島では、広島市内最大のショッピングセンター“ゆめタウン広島”にエレベータとエスカレータ計45台が納められています。



阪急百貨店うめだ本店の完成予想図



神戸芸術センター

北南米

North & South America

米国・ニューヨーク市では、世界を代表する新聞社、ニューヨーク・タイムズ社の新本社ビルとなる“ニューヨーク・タイムズ・タワー”が完成しました。地上高さ約350m、52階建の同タワーには、分速420mの超高速機種を含むエレベータ32台が納められています。

同じく米国・ロサンゼルスでは、公立病院と南カリフォルニア大学付属病院が一体となった総合医療機関“LAC + USC メディカルセンター”に、エレベータ29台が活躍しています。

カナダでは、バンクーバーに建つ一流ホテル“シャングリラ”と高級コンドミニウムが一体となった地上60階建の複合ビル向けに、超高速機種を含む13台のエレベータが納められます。

同じくカナダ南部のオンタリオ州では、カナダ最大級の規模を誇る総合病院“ウィリアム・オスラー・ヘルスセンター”が完成し、32台のエレベータが活躍しています。

アルゼンチン・ブエノスアイレスでは、高級オフィスビル“レプソル石油本社ビル”が建設中で、高速エレベータ16台が納められます。



ニューヨーク・タイムズ・タワー



LAC + USC メディカルセンター

東アジア

East Asia

香港では、カオルーン駅の真上に建つ地上72階建の超高層複合ビル“ハーバービュー・プレイス”が完成し、超高速機種を含むエレベータとエスカレータ計32台が活躍しているほか、クントン地区に建つ地上32階建の最先端オフィスビル“ミレニアム・シティ 6”には、エレベータとエスカレータ計20台を納めています。

中国では、“北京地下鉄4号線”向けにエスカレータ104台、世界屈指の五つ星ホテル“ザ・ペニンシュラ上海”向けにエレベータ28台を受注したのに続き、南京市の大規模住宅開発“海徳北岸一期”向けにエレベータ118台、遵義市の“東欣彩虹城”向けにエレベータ100台を大量受注しています。

台湾では、2009年に高雄市にて開催される「ワールド・ゲームズ」のメインスタジアム向けに、エレベータ10台が納められます。このほか韓国では、大韓住宅公社（KNHC）が建設する大規模住宅プロジェクト向けにエレベータ386台を受注し、同社からの受注累計は833台となりました。



ミレニアム・シティ 6

南アジア

South Asia

シンガポールでは、世界的に名高い超一流ホテル“セント・レジス”がオープンし、隣接する高級住宅と共にエレベータ27台が納められています。同じくシンガポールでは、セントーサ島にユニバーサル・スタジオや6つのホテルから成る“リゾート・ワールド”が建設されることになり、エレベータとエスカレータ計153台を大量受注しました。

マレーシアでは、東南アジア最大級の規模を誇る大型商業複合施設“イオン・ブキットンギ・ショッピングセンター”がオープンし、エレベータ・エスカレータ・オートウォーク計79台が活躍しています。

インドネシアでは、地上45階建の高級コンドミニウム“キャピタル・レジデンス”が完成し、エレベータ24台が納められています。

このほかインドでは、世界的に著名なホテル“フォーシーズンズ・ホテル・ムンバイ”に、豪華なエレベータ8台が設置されています。



セント・レジス

欧州・中東

Europe & Middle East

英国では、ロンドンとパリを結ぶ英仏海峡トンネル鉄道の新駅が完成し、展望用機種を含む28台のエレベータが設置されています。

アラブ首長国連邦では、都市鉄道プロジェクト“ドバイ・メトロ”向けに、オートウォーク98台を大量受注するとともに、世界最大規模の人工島「パーム・ジュメイラ」に建設されるモノレール駅舎向けにはエレベータとエスカレータ計32台が納められます。同じくドバイでは、“フォーポイント・シェラトン”と“エミレーツ・クラウン・タワー”が完成し、多数のエレベータが活躍しています。



フォーポイント・シェラトン

新商品

人を優しく見守り、建物と調和する。 新標準型エレベータ エクシオール 登場！

フジテックは、従来の標準型エレベータを全面モデルチェンジした、
新標準型マシンルームレス・エレベータ エクシオール を、今年4月1日から発売しました。

“Safety & Security”

～もっと安心空間へ～

エレベータでの事故の内、約75%はドア周りで起きていることから、乗り降りの際、ドア開閉の安全を見守る装置として、「カードポケットセンサー」「光電式ドアニック」「光電式多光軸センサー」の3つを、業界で初めて標準装備しました。

また、万一の地震に備え、地震対策機能を一段と強化。「P波センサー付地震時管制運転」を標準装備するとともに、「地震時リスタート運転機能」「自動診断・回復旧運転サービス」にも対応しています。

さらに、停電に備え、「停電時自動着床装置」を基本装備しています。

トリプルドアセンサー



カードポケットセンサー



光電式ドアニック



光電式多光軸センサー

“Comfort Design”

～もっと快適空間へ～

標準型エレベータとして、業界で初めて、かご内インジケータに「液晶ディスプレイ」を採り入れたフジテック。今回、新たに乗場インジケータにも採用し、見やすく、多彩な表示を可能にしました。また、当社従来機種から基本装備している「除菌イオン発生装置」に加え、「空気清浄機」と「森林浴消臭装置」を新たにラインアップし、清潔で快適な空間をご提供します。



乗場液晶インジケータ

XIOR

エクシオール

“Harmonic Style”

～もっと調和空間へ～

天井照明のダウンライトには、主光源として、明るく自然な色合いを持つ「LED光源」を業界で初めて採用するとともに、柔らかな光の「間接照明」

を多く採り入れました。

カラーバリエーションでは、気品のあるシックなトーンを基調に選定。特に、木の持つ温かみを感じさせる木目調を充実させました。



ダウンライトにLED光源

東京と滋賀に展示コーナーを開設！

エクシオールのデザインや機能を実際にご覧いただくため、「東京本社」と「ビッグウイング」に展示コーナーを開設。8タイプのかご内室と、ドアセンサーを実物展示しています。



グローバル・スタンダードを 実現した、 新標準型エスカレータ GS-NXシリーズ

エレベータと並び、フジテックの主力商品となるエスカレータにおいても、従来機種をモデルチェンジし、今年4月から、新標準型エスカレータ GS-NXシリーズ を発売しました。

乗降口のニューエル部に斬新なデザインを採用するとともに、運転方向を表示する矢印灯を装備することで、ユーザーフレンドリーに対応しているほか、挟まれを検知するスカートガード安全装置やコムセーフティを標準装備し、安全性を更に向上させています。

GS-NXシリーズ は、日本の「豊岡工場」と、中国の「上海華昇フジテック」とが共同で開発した商品で、世界各国の規格に対応したグローバル・スタンダードを実現しており、日本のみならず、世界での更なるシェア拡大を目指しています。



矢印灯を装備



GS-NX
シリーズ

スタイリッシュなフォルム

トピックス

エスカレータ生産拠点と、フィールド・テクニカル拠点を再構築

フジテックでは、「創業60周年」を機に、新たな事業計画に向けての革新プランを積極的に推進しています。その大きな柱となるのが、兵庫県豊岡市にありますエスカレータの主力生産拠点と、大阪府茨木市にありますフィールド・テクニカル拠点の再構築です。

1989年2月に操業開始した「豊岡工場」では、現在もフル稼働体制でエスカレータの生産を行っています。生産体制の更なる拡充と研究開発体制の一層の強化を図るため、2009年秋の完成を目指し、新たにオフィス棟と工場棟を建設するものです。

新エスカレータ開発・生産拠点は“ビッグステップ”と名付け、年間600台の生産能力を有するとともに、開発から生産までのスピーディーな一貫体制を構築します。

一方、大阪府茨木市の旧本社ビルは、現在、据付・メンテナンスというフィールド部門での技術向上と人材育成を図るため、「フィールド技術研究所」「フィールド研修センター」が活動を行っていますが、モダンゼーション部門や遠隔監視センター、部品センターを集結して、2010年2月の完成を目指し、フィールド・テクニカル拠点“ビッグフィット”として再構築します。このように、エレベータの拠点“ビッグウイング”、エスカレータの拠点“ビッグステップ”、フィールドの拠点“ビッグフィット”が三位一体となって、フジテックの更なる躍進を目指していきます。



“ビッグフィット”完成予想図



“ビッグステップ”完成予想図

「東京本社」を開設し、2本社体制に

フジテックは、今年2月1日付で、東京支社を「東京本社」とし、滋賀県彦根市の本社「ビッグウイング」との“2本社体制”といたしました。併せて、オフィスを従来の大崎から、東京都港区三田に移転しました。

東京本社の開設に当たっては、国内最大のマーケットである首都圏において、営業力・販売力の更なる強化を図るとともに、経営戦略部門を東京に配し、多方面にわたる積極的な情報の収集と発信を行うことで、フジテック・ブランドの認知を一段と高めていくことを主な目的としています。

新体制を機に、両本社が緊密に連携し、販売から開発・生産・据付・保守に至る統合を図り、マーケットニーズに即した商品とサービスを迅速にご提供することで、皆様のご期待と信頼に一層お応えできますよう努めてまいります。



東京本社

「中国国際エレベータ展覧会」が盛大に開催

世界の昇降機メーカーが一堂に会し、最新技術や商品を披露する「2008年中国国際エレベータ展覧会」が4月22日から4日間、北京郊外の河北省廊坊市にある国際展覧センターにて盛大に開催されました。

展示面積約43,000m²の広い会場には、国内外のエレベータ、エスカレータおよび部品メーカー560社が参加する中、中国でのグローバル法人「華昇フジテック」と「上海華昇フジテック」も共同で出展しました。フジテックの展示コーナーでは、最先端のマルチAVシステムを搭載した展望用新型マシンルームレス・エレベータ レビタ や、新標準型エスカレータ GS8000-NX の実機を設置し、大勢の来場者が試乗されました。同展が開催された廊坊市には、華昇フジテックの本社工場があり、展覧

会を訪れた世界からのお客様を工場やエレベータ研究塔にもご案内し、高性能・高品質を生み出す生産体制と研究開発体制を大いにアピールしました。



フジテックの展示ブース



新型エレベータ レビタ

Financial Results

連結決算情報

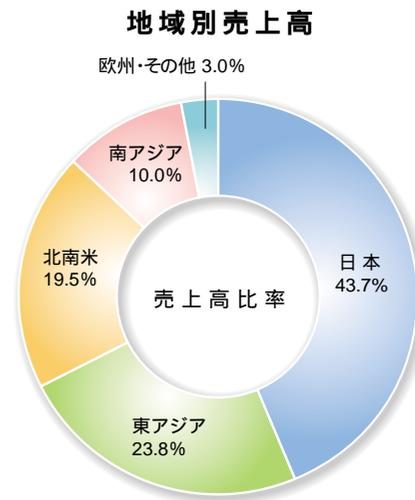
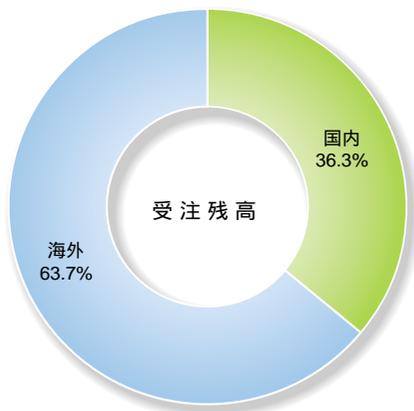
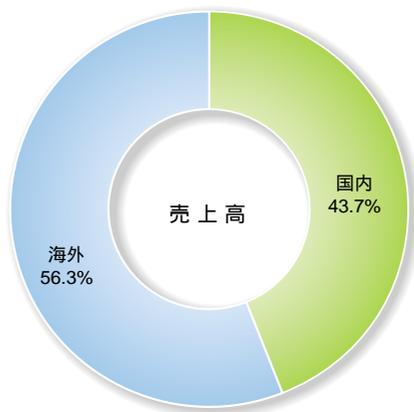
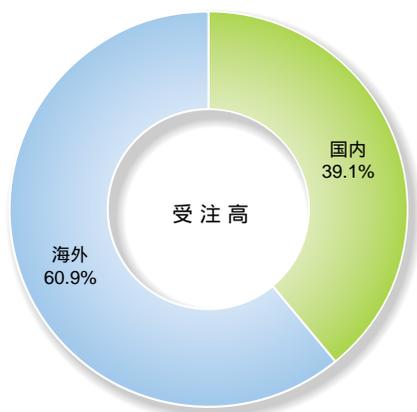
営業の状況

平成20年3月期

(平成19年4月1日 - 平成20年3月31日)

金額(百万円)

	受注高	売上高	受注残高
国内	45,329	48,377	37,815
海外	70,660	62,255	66,343
合計	115,989	110,632	104,159

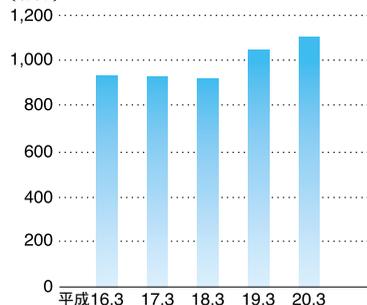


業績の推移

		平成16年3月期	平成17年3月期	平成18年3月期	平成19年3月期	平成20年3月期
売上高	百万円	93,237	92,704	91,627	104,716	110,632
営業利益	百万円	3,734	3,792	2,634	4,037	4,428
経常利益	百万円	3,681	4,203	3,214	4,772	4,725
当期純利益	百万円	1,385	1,896	1,021	7,245	2,219
1株当たり当期純利益	円	14.26	20.20	10.58	77.32	23.66
総資産	百万円	102,213	101,967	115,970	122,889	112,043
純資産	百万円	53,866	54,540	60,553	71,786	68,355
1株当たり純資産	円	574.52	582.37	646.41	713.27	675.35
研究開発費	百万円	1,822	1,726	1,834	1,880	2,257
設備投資	百万円	2,476	1,898	8,506	4,738	2,003

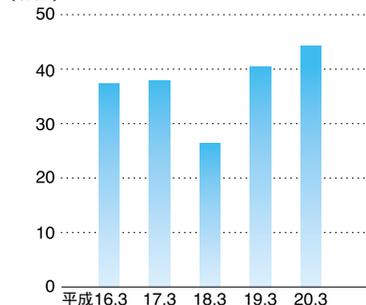
売上高

(億円)



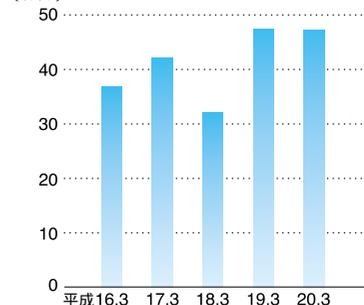
営業利益

(億円)



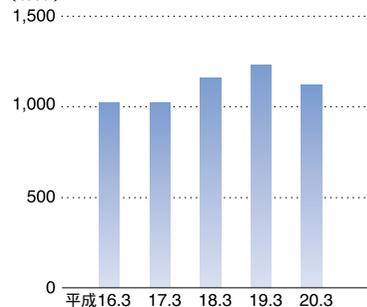
経常利益

(億円)



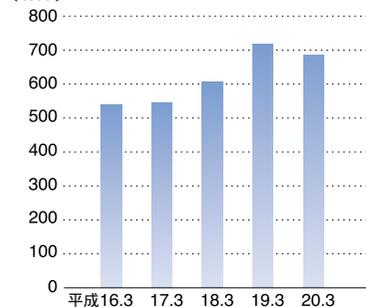
総資産

(億円)



純資産

(億円)



Financial Results

連結貸借対照表

(平成20年3月31日現在)

金額(百万円)

資産の部		負債の部	
流動資産	66,981	流動負債	36,017
現金及び預金	17,661	支払手形及び買掛金	11,687
受取手形及び売掛金	30,048	短期借入金	8,272
有価証券	0	1年以内返済予定の長期借入金	800
たな卸資産	17,210	未払法人税等	485
繰延税金資産	981	賞与引当金	1,354
その他	1,456	役員賞与引当金	38
貸倒引当金	376	工事損失引当金	909
固定資産	45,061	完成工事補償引当金	169
有形固定資産	28,404	前受金	6,393
建物及び構築物	16,256	その他	5,905
機械装置及び運搬具	3,043	固定負債	7,669
工具、器具及び備品	1,775	長期借入金	1,000
土地	6,914	繰延税金負債	1,781
建設仮勘定	413	退職給付引当金	4,450
無形固定資産	3,816	長期未払金	409
のれん	1,944	その他	28
その他	1,871	負債合計	43,687
投資その他の資産	12,841	純資産の部	
投資有価証券	6,698	株主資本	75,693
長期貸付金	1,927	資本金	12,533
繰延税金資産	57	資本剰余金	14,565
その他	4,459	利益剰余金	48,710
貸倒引当金	302	自己株式	116
資産合計	112,043	評価・換算差額等	12,476
		その他有価証券評価差額金	1,403
		繰延ヘッジ損益	1
		為替換算調整勘定	13,881
		少数株主持分	5,138
		純資産合計	68,355
		負債・純資産合計	112,043

(注)1. 当年度の連結子会社は17社であり、持分法適用会社はありません。
2. 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

連結損益計算書

(平成19年4月1日～平成20年3月31日)

金額(百万円)

売上高	110,632
売上原価	90,213
売上総利益	20,419
販売費及び一般管理費	15,990
営業利益	4,428
営業外収益	1,360
受取利息	967
受取配当金	171
雑収入	220
営業外費用	1,064
支払利息	419
為替差損	397
訴訟費用	112
雑損失	135
経常利益	4,725
特別利益	116
固定資産売却益	2
投資有価証券売却益	4
貸倒引当金戻入益	9
集約化特別助成金	100
特別損失	460
固定資産売却損	1
固定資産除却損	52
投資有価証券評価損	9
製品改修損失	396
税金等調整前当期純利益	4,381
法人税、住民税及び事業税	928
法人税等調整額	727
少数株主利益	507
当期純利益	2,219

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

連結キャッシュ・フロー計算書

(平成19年4月1日～平成20年3月31日)

金額(百万円)

営業活動によるキャッシュ・フロー	3,453
投資活動によるキャッシュ・フロー	2,675
財務活動によるキャッシュ・フロー	6,594
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,522
現金及び現金同等物の増減額(減少:)	1,987
現金及び現金同等物の期首残高	18,836
連結子会社増加に伴う 現金及び現金同等物の増加額	17
現金及び現金同等物の期末残高	16,866

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

連結株主資本等変動計算書

(平成19年4月1日～平成20年3月31日)

金額(百万円)

	株主資本				株主資本合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己 株式	
平成19年3月31日残高	12,533	14,565	47,622	106	74,615
連結会計年度中の変動額					
剰余金の配当			1,123		1,123
従業員奨励及び福利基金			5		5
連結加入による減少			1		1
当期純利益			2,219		2,219
自己株式の取得				9	9
株主資本以外の項目の連結 会計年度中の変動額(純額)					
連結会計年度中の変動額合計	-	-	1,088	9	1,078
平成20年3月31日残高	12,533	14,565	48,710	116	75,693

	評価・換算差額等				少数 株主 持分	純資産 合計
	その他 有価証券 評価差額金	繰延 ヘッジ 損益	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等 合計		
平成19年3月31日残高	2,917	0	10,755	7,837	5,008	71,786
連結会計年度中の変動額						
剰余金の配当						1,123
従業員奨励及び福利基金						5
連結加入による減少						1
当期純利益						2,219
自己株式の取得						9
株主資本以外の項目の連結 会計年度中の変動額(純額)	1,513	0	3,125	4,638	129	4,508
連結会計年度中の変動額合計	1,513	0	3,125	4,638	129	3,430
平成20年3月31日残高	1,403	1	13,881	12,476	5,138	68,355

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

Financial Results

単独決算情報

業績の推移		平成16年3月期	平成17年3月期	平成18年3月期	平成19年3月期	平成20年3月期
売上高	百万円	53,725	52,324	48,689	50,797	52,597
エレベータ部門	百万円	49,581	48,886	46,052	48,725	50,587
立体駐車設備部門	百万円	4,143	3,437	2,636	2,071	2,010
輸出比率	%	9.7	7.5	9.8	10.0	8.0
営業利益	百万円	1,775	1,920	506	1,058	1,241
経常利益	百万円	3,005	3,164	2,017	2,305	2,483
当期純利益または当期純損失()	百万円	1,917	△ 3,231	328	5,481	1,261
1株当たり当期純利益または当期純損失()	円	20.00	△ 34.50	3.23	58.55	13.48
総資産	百万円	77,356	70,196	80,013	79,779	76,607
純資産	百万円	47,283	43,293	45,075	48,822	47,432

貸借対照表

(平成20年3月31日現在)

金額(百万円)

資産の部		負債の部	
流動資産	26,102	流動負債	20,744
現金及び預金	1,267	支払手形及び買掛金	6,858
受取手形及び売掛金	13,907	短期借入金	5,700
たな卸資産	8,771	1年以内返済予定の長期借入金	800
その他	2,200	1年以内返済予定の関係会社長期借入金	2,673
貸倒引当金	43	前受金	1,735
固定資産	50,505	その他	2,975
有形固定資産	21,916	固定負債	8,430
建物及び構築物	11,723	長期借入金	1,000
土地	6,614	関係会社長期借入金	3,005
その他	3,577	退職給付引当金	4,015
無形固定資産	820	長期未払金	409
投資その他の資産	27,768	負債合計	29,174
投資有価証券	6,065		
関係会社株式	8,478	純資産の部	
関係会社出資金	4,100	株主資本	46,033
長期貸付金	1,908	資本金	12,533
関係会社長期貸付金	4,101	資本剰余金	14,565
繰延税金資産	1,905	利益剰余金	19,050
その他	2,480	自己株式	116
貸倒引当金	1,273	評価・換算差額等	1,398
資産合計	76,607	純資産合計	47,432
		負債・純資産合計	76,607

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

損益計算書

(平成19年4月1日 - 平成20年3月31日)

金額(百万円)

売上高	52,597
売上原価	41,791
売上総利益	10,806
販売費及び一般管理費	9,564
営業利益	1,241
営業外収益	1,959
受取利息	130
受取配当金	1,750
雑収入	78
営業外費用	718
支払利息	190
為替差損	379
訴訟費用	112
雑損失	36
経常利益	2,483
特別利益	284
固定資産売却益	0
投資有価証券売却益	4
貸倒引当金戻入益	179
集約化特別助成金	100
特別損失	445
固定資産除却損	39
投資有価証券評価損	9
製品改修損失	396
税引前当期純利益	2,322
法人税、住民税及び事業税	198
法人税等調整額	861
当期純利益	1,261

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

株主資本等変動計算書

(平成19年4月1日 - 平成20年3月31日)

金額(百万円)

	株主資本				株主資本合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	
平成19年3月31日残高	12,533	14,565	18,912	106	45,905
事業年度中の変動額					
剰余金の配当			1,123		1,123
当期純利益			1,261		1,261
自己株式の取得				9	9
株主資本以外の項目の事業年度中の変動額(純額)					
事業年度中の変動額合計	-	-	138	9	128
平成20年3月31日残高	12,533	14,565	19,050	116	46,033

	評価・換算差額等			純資産合計
	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	評価・換算差額等合計	
平成19年3月31日残高	2,916	0	2,917	48,822
事業年度中の変動額				
剰余金の配当				1,123
当期純利益				1,261
自己株式の取得				9
株主資本以外の項目の事業年度中の変動額(純額)	1,518	0	1,518	1,518
事業年度中の変動額合計	1,518	0	1,518	1,390
平成20年3月31日残高	1,398	0	1,398	47,432

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

Stock Information

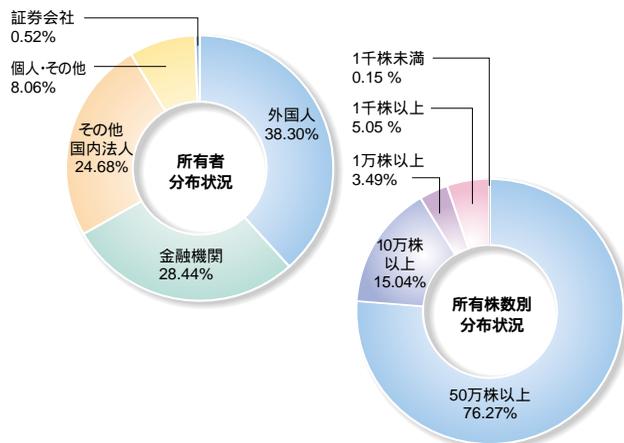
株式の状況

発行済株式の総数 93,767,317株

株主数 3,631名

上場証券取引所 東京証券取引所、大阪証券取引所

所有者分布状況・所有株数別分布状況

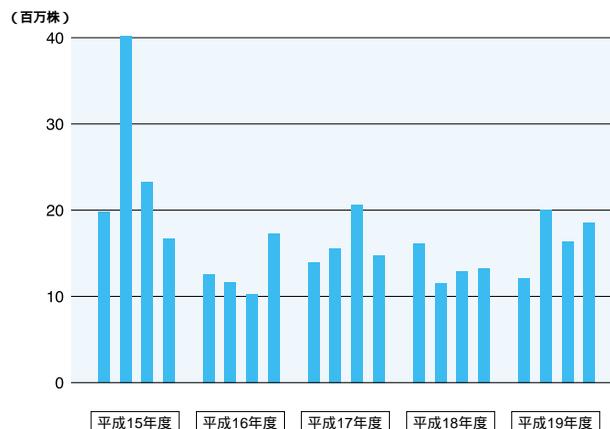


大株主

株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
1. シティグループ・グローバル・マーケット・インク	10,577	11.30
2. 株式会社ウチヤマ・インターナショナル	10,025	10.71
3. メロンバンクリーティー クライアンツ オムニバス	5,722	6.11
4. 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	5,597	5.98
5. 富士電機ホールディングス株式会社	5,089	5.44
6. クレディットスイス チューリッヒ	4,580	4.89
7. 株式会社りそな銀行	4,203	4.49
8. 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4)	3,355	3.58
9. 株式会社みずほコーポレート銀行	1,989	2.13
10. 松下電器産業株式会社	1,867	1.99

(注) 出資比率は平成20年3月31日現在の発行済株式総数である93,767,317株から自己株式166,824株を除いて計算しています。

株価 / 出来高推移



会社の概況

設立 昭和23年2月9日

資本金 125億3,393万円(平成20年3月31日現在)

フジテック・グループ

【日本】本社 滋賀県彦根市 ビッグウイング TEL(0749)30-7111
 東京本社 東京都港区三田3丁目9-6 TEL(03)4330-8200
 大阪支社 大阪市浪速区難波中2丁目10-70 TEL(06)6636-5900

【北米】アメリカ FUJITEC AMERICA, INC.
 カナダ FUJITEC CANADA, INC.
 グアム FUJITEC PACIFIC, INC.

【南米】ベネズエラ FUJITEC VENEZUELA C.A.
 アルゼンチン FUJITEC ARGENTINA S.A.
 ウルグアイ FUJITEC URUGUAY

【欧州】ドイツ FUJITEC DEUTSCHLAND GmbH
 イギリス FUJITEC UK LTD.
 サウジアラビア FUJITEC SAUDI ARABIA CO., LTD.
 エジプト FUJITEC EGYPT CO., LTD.
 アラブ首長国連邦 FUJITEC UAE

【南アジア】シンガポール FUJITEC SINGAPORE CORPN. LTD.
 フィリピン FUJITEC, INC.
 マレーシア FUJITEC (MALAYSIA) SDN. BHD.
 インドネシア P.T. FUJITEC INDONESIA
 インド FUJITEC INDIA PRIVATE LTD.
 ベトナム FUJITEC VIETNAM CO., LTD.

【東アジア】ホンコン FUJITEC (HK) CO., LTD.
 タイワン 富士達股份有限公司
 コリア FUJITEC KOREA CO., LTD.

【中国】中国 華昇富士達電梯有限公司
 中国 上海華昇富士達扶梯有限公司
 中国 上海富士達電梯研発有限公司
 中国 富士達電梯配件(上海)有限公司
 中国 FUJITEC CHINA

役員

取締役

取締役会長	大谷 謙治
代表取締役社長	内山 高一
取締役	住本 彰
取締役	関口 岩太郎
取締役	原田 勝弘
取締役	松原 敏之
取締役	沢 邦彦
取締役	花川 泰雄
取締役	稲葉 和夫

監査役

常勤監査役	河合 正和
監査役	門間 進
監査役	中野 正信

執行役員

執行役員社長	内山 高一*
執行役員副社長	住本 彰*
執行役員副社長	関口 岩太郎*
専務執行役員	原田 勝弘*
専務執行役員	松原 敏之*
常務執行役員	白井 孝雄
常務執行役員	北川 由雄
常務執行役員	野木 正彦
常務執行役員	梶田 順司
執行役員	赤松 美弘
執行役員	津山 圭二
執行役員	升本 裕紳
執行役員	岡田 隆夫
執行役員	西口 久信
執行役員	山城 啓二
執行役員	黒木 和比幸

*は兼務しています。

(平成20年6月26日現在)

株式についてのご案内

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
期末配当受領株主確定日	毎年3月31日 なお、中間配当の株主確定日は9月30日
公告方法	電子公告により行います。 ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による ことができない場合の公告方法は、日本経済新聞に掲載する ことといたします。 ホームページアドレス： http://www.fujitec.co.jp/koukoku/
株主名簿管理人	東京都港区芝3丁目33-1 中央三井信託銀行株式会社
同事務取扱場所	大阪市中央区北浜2丁目2-21(〒541-0041) 中央三井信託銀行株式会社 大阪支店証券代行部 TEL(06)6202-7361(代表)
同取次所	中央三井信託銀行株式会社 本店および全国各支店 日本証券代行株式会社 本店および全国各支店
単元株式数	1,000株
お知らせ (各種手続き用紙について)	住所変更、単元未満株式買取請求、名義書換請求および配当金 振込指定に必要な各用紙のご請求は、株主名簿管理人の フリーダイヤル0120-87-2031で24時間受付しております。 お問い合わせ電話番号: 0120-78-2031(9:00～17:00) ホームページアドレス: http://www.chuomitsui.co.jp/person/p_06.html

フジテック株式会社

<http://www.fujitec.com>



環境対応型の大豆油インキで印刷しています。